

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	看護の基本となる実習			担当講師	各実習担当教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	1年	AB	2(90)	実習	令和5年前期/後期
科目目標					
1. 看護の対象である人の療養環境と病院内で行われる様々な場での看護の実際を知る。 2. 看護の対象である人を理解するために生活背景や入院生活, 病気体験の影響を知る。コミュニケーションを活用し, 原理原則に基づいた看護に共通する援助技術の実施と評価を行う。 3. 看護の対象である人にとっての日常生活援助の必要性を理解し, 対象者の状況に合わせた日常生活援助を実施し評価する。					
授業概要					
病棟看護師に同行し看護の実際を知る。病棟へ実習に行き、受け持ち患者を1名担当し、その人との関わりをとおして学ぶ。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①②③④・5・6・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授業内容			
1	9	1・2回 病院内での看護の実際を知る実習 1 地域の特徴に合わせた病院の役割と機能が分かる。 2 看護の対象である人の療養環境と, 病棟で行われる看護の実際を知る。			
2	9	1 病院内の様々な場での看護の実際を知る。 2 看護師と行動を共にしたことで分かった看護師の役割と看護するうえで大切なことを考える。			
3	9	3～10回 コミュニケーションと日常生活援助実習 1 コミュニケーション技法を活用した, 患者に合わせたコミュニケーション。 2 原理原則に基づいた看護に共通する援助技術の実施と評価。			
4	9				
5	9				
6	9				
7	9	1 対象の日常生活の援助の必要性の理解 2 対象の状況に合せた日常生活援助の実施			
8	9				
9	9				
10	9				
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員による授業

科目	看護過程の展開			担当講師	各実習担当教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	2年	実習G	2単位(65)	実習	令和5年前期
科目目標 情報収集, アセスメント, 問題点の明確化, 計画, 実施, 評価という看護過程の展開の一連のステップを展開しながら受け持ち患者の看護を通じて実践する。					
授業概要 病棟へ実習に行き、受け持ち患者を1名担当し、その人との関わりをとおして学ぶ。					
卒業時到達目標との関連 DP- ①・2 ③④⑤⑥・7・8・9・10・11・⑫					
回数	時間数	授業内容			
1	9	○実習1日目 実習する病棟の理解			
2	9	○実習1～4回 受け持ち患者を通じて、看護過程の一連のステップを行う。 1 情報収集とアセスメント			
3	9	2 問題点の明確化			
		3 計画			
		4 実施			
		5 評価			
4	9				
5	2	学内実習 1 中間評価 2 看護過程の展開ステップを振り返る			
6	9	○実習6～7回 1～4回目の実習から受け持ち患者の看護について評価し、看護を行う。 1 情報収集とアセスメント			
		2 問題点の明確化			
		3 計画			
		4 実施			
		5 評価			
7	9				
8	9	○実習最終日には、グループ各メンバーの学びを共有する。			
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	慢性期・終末期にある患者の看護			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	2年	実習G	2単位 (90時間)	実習	令和5年前期、後期
科目目標					
1. 慢性疾患のある患者の病みの軌跡や加齢による心身の変化を理解をする。 2. 検査や治療、療養を継続していくための支援や多職種連携についての理解をする。 3. 機能の障害やこれまでの経過などセルフマネジメントに影響する要素を含めながら看護を考える。 4. 治療的コミュニケーションの活用や、自己効力感を維持・向上できるような支援について考え、実施する。 5. 機能の障害に伴う症状の観察や判断を行い、症状を緩和できるような日常生活援助を実施する。 6. 外来で治療を受けながら生活する患者、家族を通して外来看護の役割を理解する。					
授業概要					
1～9回目は成人期、老年期にある慢性疾患患者を受け持ち、その人との関わりをとおして慢性期にある人の看護の実践について学ぶ。その内の1日は外来での実習を通し、地域で治療を受けながら生活する人への看護の役割について知る。10回目は学内実習として、見学実習での内容の整理を行い、地域で治療を受けながら生活するために必要なことや看護の役割について学びを整理、共有する機会とする。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	2	オリエンテーション、カルテからの情報収集、患者とのコミュニケーション 1 地域での病院の役割、病棟の特徴、患者の療養環境について知る。 2 看護の対象である人の概要を知る。			
2	2	2-3回 カルテや患者とのコミュニケーションを通しての情報収集、全体像の整理とアセスメントを行い、看護の方向性を見出す。 1 看護の対象である人の全体像を明らかにし、ニーズの充足、未充足の判断をする。 2 主要なニーズの情報整理、分析を行い、看護の方向性を明確化する。 3 看護の対象である人の全体像について発表を行い、グループでの共有、意見交換を行う。(全体像の発表)			
3	2	4 看護の方向性に基づいた看護実践を行い、評価、修正を行う。			
4	2				
5	2	5～8回 カルテや患者との治療的コミュニケーションを通して情報の追加、アセスメント、看護計画立案を行い、個別性のある看護の実践を行う。 1 治療的コミュニケーションを活用し、自己効力感を維持・向上しながらセルフケアを行えるような支援を実施する。 2 カンファレンスを行い、個別性にあつた看護を考え、実施する。(カンファレンスの実施)			
6	2	3 実践した看護の評価を行い、看護計画の追加、修正を行う。 4 受け持ち患者を通しての対象理解、慢性期における看護の役割について整理、学びの共有を行う。(学びの会の実施)			
7	2				
8	2				
9	2	(外来実習:1～9回目のうちのいずれか1日で実施する) 1 外来で治療を受けながら生活する患者、家族を通して外来看護の役割を知る(透析室、外来化学療法室、心不全外来、緩和ケア外来、フットケア・浮腫外来、ストマ外来、乳腺外来など)			
10	2	(学内実習) 1 外来での見学実習の内容を整理し、患者が地域で治療を受けながら生活するために必要なことや看護の役割について自分の考え、学びを明らかにする。 2 見学内容や、学びの共有を行う。(各実習場所ごとの発表の実施)			
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	生活療養の場の高齢者の看護			担当講師	専任教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	2年	A・B	2(75)	実習	令和5年前期
科目目標					
1. 老年期の発達課題に向き合い人生の最終段階を生きる高齢者を関わりをとおして理解する。 2. 高齢者の暮らしの場としての介護保険施設の役割を説明できる。 3. 暮らしの場における看護と介護の連携・協同の実際から生活モデルの看護を考察する。 4. 暮らしの場における健康管理と利用者のもてる力を活用した生活支援を考え実施する。 5. 高齢者の尊厳とQOLを支える看護について考察する。					
授業概要					
看護職・多職種によるケアの現場に同行し、施設を利用する高齢者の健康管理・生活管理など予防的な看護の体験をとおして、生活モデルの看護を学ぶ。施設利用者の日常生活に関わり、生活者としての高齢者理解を深める。交流機会をとおし加齢による身体・心理・社会的変化を観察し特徴に合わせたコミュニケーションをはかる。体験を振り返り自己の高齢者観を表現し共有する。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①・②・3・4・5・⑥・7・⑧・⑨・⑩・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	臨地実習 1 介護保険施設の理解 1) 介護保険施設の役割 2) 暮らしの場である施設の特徴 3) 利用者の健康管理と暮らし方の支援			
2	9	臨地実習 2 暮らしの場である施設の実際を知る (シャドーイング) 1) 入所者の暮らし・通所利用者の活動 2) 健康管理 3) 多職種によるケアの実際			
3	9	3 施設を利用する高齢者の理解 1) コミュニケーションと観察 2) ケースカンファレンス, 職域別カンファレンスへの参加 3) 受け持ち利用者の情報収集			
4	9	(同上)			
5	4	学内実習 1 中間評価 2 暮らし方を尊重し、もてる力を活用する生活支援のあり方を振り返る			
6	9	(同上)			
7	9	臨地実習 4 受け持ち利用者の健康管理と日常生活支援			
8	9	(同上)			
9	8	学内実習 老年看護学実習のまとめ 1 自己の高齢者観 2 高齢者の尊厳とQOLを支える看護			
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	地域で生活する小児の看護			担当講師	専任教員
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時 間 数)	授 業 の 種 類	実 施 時 期
第一看護学科	2年	AB	1 (45)	実習	令和5年前期・後期
科目目標 地域で生活する小児の健全な成長・発達促進、健康の維持・増進のための援助の実際を知る。					
授業概要 ・乳幼児期にある小児の成長・発達の実際や成長・発達段階に応じた小児への関わり方について、保育の実際に参加したり、保育士のかかわりをみて学ぶ。 ・地域における乳幼児保育を取り巻く環境や関連する施策、支援について学習する。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	I 学内実習 1 地域の子育て支援の実際について、学習する。 2 保育所の地域における役割を理解する。			
2	9	II 保育所実習 1 成長・発達の特徴の理解や発達の評価 2 障害をもつ子どもの特徴の理解及び支援の実際 3 成長・発達を促すための保育の実際 4 安全教育・安全管理の実際			
3	9				
4	9				
5	9				
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項

科目	領域横断実習 障害をもちながら地域で生活する人の看護			担当講師	各実習担当教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第一看護学科	2年	AB	2(70)	実習	令和5年後期
科目目標 1 障害をもつ人の地域での生活の実際と、法律に基づく自立支援サービスを理解する。 2 障害をもつ人との関わりを通してコミュニケーションの工夫や支援の実際を知る。 3 地域で生活を送る人を支える看護の役割や多職種連携の必要性について理解する。					
授業概要 身体・精神・知的障害等、さまざまな障害のある人の生活や就労の場を見学しながら、個別性や多様性をふまえ、ありのまま理解する。障害の特徴をふまえた社会福祉サービスのしくみと実際や看護の役割を理解する。それぞれの実習場所での見学内容や体験を振り返り、障害をもちながら地域で生活する人の理解と学びを共有する。					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	特別講義	広島県の障害者支援の施策から、支援内容とその実際を理解する 就労支援の場で働いた元利用者の体験談から、その実際を理解する			
2	9	「地域・在宅看護論」 リハビリテーション施設への見学実習 機能維持・回復に取り組む人々と在宅へ向けた支援の実際を知る			
3	9	「地域・在宅看護論」 重度心身障害児施設での実習 重度心身障害者（児）における医療的ニーズの高い人の生活の実際や看護を知る			
4	9	「地域・在宅看護論」 相談支援事業所での実習 障害者と家族の地域での生活の実際や生活継続のための支援の実際を知る			
5	9	「小児看護学」 児童発達支援センターや障害児入所施設での実習 障害をもち生活する児や家族の特徴と、成長・発達を支える支援を理解する			
6	9				
7	9	「精神看護学実習」 就労支援施設での実習 障害をもちながら地域で働く人々に接し、その支援について理解する			
8	9				
9	7	全体まとめ（学内） 障害をもちながら地域で生活する人の理解と実際の学びを共有する			
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					